

伝統と革新

1900年(明治33年)開校の「岡山県高等女学校(のちの岡山県第一岡山高等女学校、略称・一女)」と1921年(大正10年)開校の「岡山県第二岡山中学校(略称・二中)」を母体に現在の「岡山県立岡山操山高等学校」が1949年(昭和24年)に誕生しました。

前身から数えると110年を超える歴史を持つ、岡山県内有数の伝統校です。

この間4万6千人を超える卒業生が巣立っていきました。日本人女性初のオリンピックメダリスト人見絹枝女史や全国初の女性国会議員の一人近藤鶴代女史、参議院の正副議長を同時に占めた安井謙氏と秋山長造氏なども卒業生です。

平成13年には岡山県下初の県立中学校、岡山県立岡山操山中学校が併設されました。岡山操山中学校の一期生が高校へ入学した年に、単位制教育課程へと改編しました。

操山高校は一世紀を超える伝統と、教育の今日的課題に取り組み続ける革新性を併せ持った学校といえます。

百年を超える伝統を誇る学び舎

校長からのメッセージ

「本校生徒への期待」

校長 廣本 勝裕



これからの時代に、特に求められる力は、「コミュニケーション能力」「主体性」「チャレンジ精神」などとも言われます。*

そして、これらの力を駆使しながら、変化してやまない現代社会の様々な場面で、仲間と力を合わせて当面する諸課題を解決しながら、自ら描く目標の達成に向けて粘り強く実践していくことが期待されます。

岡山県立岡山操山高等学校では、併設の県立中学校からの生徒と高等学校段階で本校を志した生徒とが互いに切磋琢磨し、「夢実現型単位制」による多様な各教科等の学習はもとより、「未来航路プロジェクト(総合的な学習の時間)」など中高一貫教育ならではの特色ある教育活動、部活動等の学びを通じて、高い志を胸に、大樹のごとく伸びています。

今後も、生徒たちが、しっかりと大地に根を張り、枝を広げ青葉を茂らせ、人々に憩いの場を提供する大樹のように、社会に貢献できる有為の人材に成長することを願ってやみません。

※「2008年度新採用者に関するアンケート」 採用に当たっての重視点(複数回答可)
2009.4.10(社)日本経済団体連合会